



編集後記・Editorial Notes

魚類学雑誌  
41(4): 494-495, 1995

魚類学雑誌第41巻も、40巻に引き続いて総計500ページを超えるボリュームとなりました。これもひとえに皆さんからの活発な投稿があってのことです。また、お忙しい中、会員通信欄の原稿依頼を快く引き受けたされた方々のお蔭でもあります。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。(MM)

編集作業をしていて気がついたことを以下に記しますので、原稿作成や投稿原稿の改訂作業の際に参考にして下さい。

1. 校閲者のコメント 校閲作業は投稿原稿をより良いものにするために行っています。校閲者のコメントがすべて正しいわけではありませんが、著者以外の見解は論文を改良するのに役立つものです。校閲者の指示にすべて従う必要はありませんが、指示に従えない場合には理由を明記して下さい。理由を明記せずに改訂すると、

編集委員会では著者がどのような見解に立っているか判断できないこともあります。著者に問い合わせることになります。結果的に、論文出版までに余分に時間がかかることがあります。

## 2. 英文

(1) 投稿前に原稿を英文校閲に出すことを勧めます。できれば、同じ分野の研究者に読んでもらうとよいでしょう。初めて論文を書くときにも、遠慮せずに心当たりの研究者に手紙で頼んでみるとよいでしょう。もし、そのような人がいなければ、現在ニュージーランドに住んでいる Dr. Graham S. Hardy に頼むとよいかもしれません。彼は元魚類学者だったので、英語表現についても丁寧に校閲してくれます。彼の住所は P. O. Box 750, Thames, New Zealand でファクスは 001-64-7-868-2992 (64 はニュージーランドの国番号) です。私費の場合、タイプ用紙 1 枚あたり千円という破格の安さでみてくれます。

(2) 投稿論文を外国人校閲者に送ることも多いのですが、彼らは内容を中心に校閲します。したがって、外国人校閲者が英文を直してこない場合もあることにご注意下さい。英語の表現はあくまでも著者の責任です。

3. 図の作成 図の文字入れにタイプライター文字を使うのは避けて下さい。仕上がりが鮮明にいきません。インクジェットプリンターの出力を原図にする場合も、原図が小さい場合は仕上がりが鮮明にいきませんのでご注意下さい (レーザープリンターの場合は問題ありません)。また、図は全段で幅が最大 13 cm, 片段で最大 6.5 cm に縮小されます。あらかじめそのことを念頭に、二段組の本文に收まりのよい原図を作成して下さい。さらに、原稿に図の挿入位置を指定するのをお忘れなく。また、図の縮尺率を図の隅、もしくは図のカバーなどに明記して下さい (編集段階で希望通りにいかない場合もでてきますのでご了承下さい)。

4. 原稿の綴じ方 原稿をホチキスで綴じないで下さい。校閲や編集の際に、原稿をバラバラにする作業が必要でできます。原稿はクリップなどではさみ、容易にばらせるようにして下さい。

5. 和文要旨, Abstract, 図の説明 本文と連続させて書いている人がいますが、必ず別紙に独立させて書いて下さい。和文要旨, Abstract, 図の説明が本文と連続していると、編集の際、まことに不便です。

6. 原稿のページの付け方 表紙が第 1 頁になります。2 頁目が要旨、ふつう 3 頁目から本文が始まり、和文摘要 (和文表題、著者名、住所等を含む) が最終ページになります。表や図の説明につけるページ (もし必要なら) は別のページ番号をつけて下さい。

7. 表と図の説明 図を説明するのはキャプションですが、表の場合はタイトルです。ですから、表の場合、簡潔に表の内容を説明する「タイトル」をつけてください。タイトルですから文末にビリオドはつけません。また、表の内容を詳しく説明する必要がある場合は、脚注に示して下さい。脚注に使用する上付き文字 (upper script) は、括弧を付けない数字もしくは文字を原則として下さい (もちろんわかりにくい場合は、アスタリスクを付けたり、片括弧を付けたりして下さい)。

8. 返信用封筒 投稿の際、返信用封筒 (著者の住所、氏名を明記) を 2 枚同封して下さい。編集作業の際、多数の原稿や初校を郵送するので返信用封筒があると助かります。

以上のことを行っていただくと、原稿の改訂作業がよりスムーズに進み、結果として論文の出版が早まります。ご協力、よろしくお願ひいたします。なお、体裁に関するより詳しいことについては、最新号の論文をご覧下さい。  
(KM & MM)

本会名誉会員、羽根田弥太博士は 1995 年 1 月 30 日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

日本魚類学会

We regret to announce that Dr. Yata Haneta, honorary member of the society, passed away on January 30, 1995.

The Ichthyological Society of Japan